



ティアニー先生の臨床入門

ローレンス・ティアニー, 松村 正巳 ● 著

丁寧に症例を紐解く思考過程を的確に文章化

評者

岸田 直樹

手稲溪仁会病院 総合内科・感染症科

幸せにもティアニー先生のケースカンファレンスへ幾度となく参加し、ケースプレゼンテーションもさせていただくことができた。そんな自分が回を重ねていくうちに、その真の魅力として感じはじめていくことがある。「鑑別診断学の神様」として名高いティアニー先生のすごさを皆で語ると、“網羅的な鑑別疾患”や“稀な疾患の知識”となることがやはり多い。しかし、それは真の魅力ではないのであろうと…。ティアニー先生のすごさは、鑑別疾患を網羅的に挙げるマシーンとしてのすごさ、重箱の隅まで行き届いたサイボーグのような知識量、そんなものでは全くないと回を重ねるごとに感じている自分がある。「いくつもあるプロブレムリストから、鑑別疾患を挙げるに値するプロブレムのみを抽出し、優先順位をつけて鑑別疾患を挙げていく時間的空間的アプローチ」そのすごさである。

自分では言葉にできなかった、瞬時に判断するその眼力が、なんと本書では単なるセンスとして語られるのではなく、的確に文章化されている。読者には、症例によってどの陽性所見を組み合わせるかや、鑑別疾患に優先順位を与えうる clinical pearl の使い方にぜひ注目してほしい。そして、結局はティアニー先生の鑑別は2つか3つとなっている(が、2つ目以降にも、もはや重みはそれほどない)ことに気がつく。診断がつかないときは、多くの微妙な陽性所見に振り回されているのであるが、ティアニー先生にはそのブレがない。最近では、なんとかティアニー先生を振り回してやろうとケースプレゼンテーション

ンで仕掛けている自分がいるが、敗北する。

本書は診断の神様として有名なあのティアニー先生の本であり、マニアックな最終診断となる難しい症例のオンパレードと思っている方も多いかもしれないが、そうではない。そのほとんどが誰もが知らなくてはいけない基本的な疾患であり、非常に丁寧に症例を紐解くそのさまは、初学者にもとても良いこと間違いない。にもかかわらず中級者以上が読むとなぜか味わい深く、網羅的な鑑別なようで、実は clinical pearl を自在に操り、基本的な疾患に対してもいつもと同じように数点の真の active problem に瞬時に注目しているその思考過程がしっかり文章化されており、新鮮さとともに感動をも感じるであろう。自分自身、文章化はできていないが、clinical pearl は僕たち日本人の思考過程には非常に馴染みやすい。本書をきっかけにティアニー先生の魅力を垣間見ることができるだけでなく、その診断過程が僕たち日本人の思考過程にも違和感なく、何とも言えない心地良さすら与えてくれていることに気がつく。何より本書をきっかけに、ティアニー先生のケースカンファレンスに足を運んでいただきたい。そこにはまた本では表現しきれないティアニー先生独特の“間”としての診断アプローチの魅力を感じることができる。

●A5 頁164 2010年

定価 3,150 円(本体 3,000 円+税 5%)

[ISBN 978-4-260-01177-8] 医学書院刊